



アフリカ健康構想セミナー
アフリカにおける保健課題の解決に向けて

2023年3月2日・3日

結果概要

内閣官房健康・医療戦略室

アフリカへの進出や事業拡大を検討中の企業と、アフリカで活躍する有識者が、意見交換を実施。また、オーディエンスとして184名が参加、ファシリテータ ミランガ氏の下、質疑応答等も実施。

日本企業のプレゼンテーション



ヤマハ発動機株式会社のクリーンウォータープロジェクト

- ・ 「水が変われば、暮らしが変わる」、クリーンウォータープロジェクトについてプレゼン
- ・ 装置の販売だけでなく、**水委員会の設立をサポートし持続可能性を高める**、スタッフが現地を訪れ監督として村人に設置指導し、技術トレーニングを行っていることも紹介

有識者からのコメント・質疑



野田先生（NCGM国際協力局、セネガル保健省でアドバイザーとして活躍）

- ・ 特に農村地域において、**現地の人々が自立的に管理できる持続可能な技術**を持つことは画期的
- ・ 病院向け、透析などの高品質の水について、質の観点でニーズを満たすことが難しい



Dr. Eng. Patricia N. Kiarie (ケニア水省)

- ・ 日本が、アフリカにおける水の問題に関心を持っていることに感謝
- ・ **UHCの達成のためにも、水の課題は重要**である
- ・ 国家政府や地方政府などその地域の**水分野の適切な管轄機関を特定する必要性を指摘**



Dr. Eligius LYAMUYA (タンザニア、ムヒンビリ健康科学大学)

- ・ タンザニアの急激な人口増加によって、特に地方では水量が足りず、水質が担保されていないのが現状
- ・ メンテナンス費用の低減が必要

Dr. Milanga MWANATAMBWE（一般社団法人 徳洲会 アフリカ代表 顧問） Day1ファシリテータ

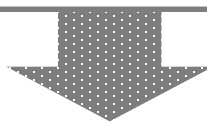
日本企業のプレゼンテーション



三菱ケミカルアクア・ソリューションズ株式会社の「分水型給水システム」

飲料水生産技術、医療機関用水の分離精製技術、透析用水生産システム/手術用手洗い設備等、顧客ニーズに応じた水に対するトータルソリューションを紹介

- ・ タンザニアのフッ化物過剰症の問題を解決するため、特殊吸着材料を用いたろ過装置を設置。地域ニーズに合わせてられる膜技術を保有



有識者からのコメント・質疑



上野先生 (熊本大学、アフリカでの研究に従事)

- ・ 病院における水の供給も非常に重要。タンザニアをはじめ、アフリカ諸国全般で病院用の高品質の水の需要が高まっている
- ・ 輸液用水などの需要も高くなっている



Dr. Bruno Sunguya(タンザニア、ムヒンビリ健康科学大学)

- ・ 関連疾患やフッ化物のような水に含まれる化学物質などが原因で、多くの幼児が死亡。
- ・ 学校に導入するアプローチも重要。
- ・ アフリカでは太陽光発電技術が普及しているため、ソーラー発電などの他のサステナブルな技術と組み合わせることで、さらに有益なソリューションとなる可能性がある



Dr. Eng. Patricia N. Kiarie (ケニア水省)

- ・ ケニアの上水道は水質が一定してない課題がある
- ・ 同社の製品群は幅広いため、水・衛生省以外の分野領域でも展開が期待できる

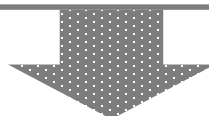
Day1に引き続き、アフリカへの進出や事業拡大を検討中の企業と、有識者が、意見交換を実施。また、オーディエンスとして115名が参加、ファシリテータ 神馬氏の下、質疑応答等も実施。

日本企業のプレゼンテーション



ハクゾウメディカル株式会社の「イロミル」

- 衛生に関わる問題の解決のため、手を洗う際に泡の色が変わるハンドソープ「イロミル」を紹介
- CDCとWHOのガイドラインによると手洗いの推奨時間は約30秒とされているものの、実際には30秒間数えながら手洗いをを行うのは難しく、この問題を解決するために開発された商品であると紹介

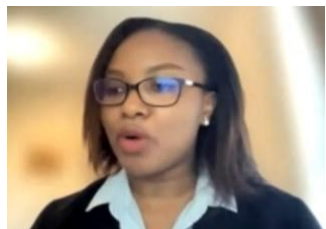


有識者からのコメント・質疑



武居先生（光心会理事長、ケニアでリハビリテーション施設を運営）

- 手洗いの30秒間の意識を高めることができる特にアフリカの子どもたちは色が変わるのを見て喜ぶだろう
- 清潔な水を使用し、衛生的な環境管理を行うことで、医療レベルをあげることができる



Dr. Julian Natukunda(ウガンダ大学)

- 現地ではどのように手を洗えばよいのかわからない人も多く、教育も行うことができる点が良い。
- 水の供給や水のインフラを提供する組織との連携を行う必要性を指摘



神馬先生（東京大学、長年国際保健分野の研究に従事） Day2ファシリテータ

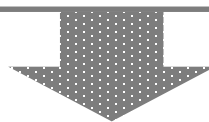
- 健康教育やヘルスプロモーションに複雑な説明が必要とするが、色を見るだけで手洗いのおもしろさを簡単に理解できるため、非常に強いナッジ効果がある

日本企業のプレゼンテーション



株式会社ユカシカドの「栄養改善尿検査システム」

- テスト用紙とスマートフォンを使って現場でスクリーニングを行うことができる栄養検査キットを紹介
- 母子栄養の問題を解決に向け、栄養失調と隠れた栄養不足の程度を把握するためのスクリーニングテストを提供していきたい



有識者からのコメント・質疑



新福先生（広島大学、アフリカでの研究に従事）

- 栄養は重要だ。栄養不良の問題はフードロスやSDGsのゴールである健康、ジェンダー、農業、気候変動など多くの分野に深く関連している。
- 妊産婦にとって侵襲性の低い、尿を用いた栄養状態のスクリーニングができる画期的な製品である



Dr. Bruno Sunguya(タンザニア、ムヒンビリ健康科学大学)

- 多くの子どもが成長障害や貧血の苦しんでおり、診療所ベースでしか把握されていなかった個人の栄養状態を、検査キットを利用することによって、ビッグデータの収集や診断ツールの確立に役立てられる可能性がある。

ファシリテータ コメント

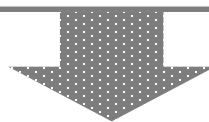
- 「プレジジョンニュートリション」が考えが重要視される中、個人の特性にあわせた栄養管理は非常に重要。アフリカ大陸は一つでもアフリカの人々は多様だということを忘れてはならない。グローバルヘルスまたはグローバル栄養のトレンドでもある。

日本企業のプレゼンテーション



株式会社T-ICUの「リリーヴ」と「クロスバイ」

- 遠隔相談サービス「リリーヴ」：ビデオ会議システムを利用、日本のICU専門医が診療サポートで医療水準の高い治療を提供
- 遠隔モニタリングシステム「クロスバイ」：遠隔から患者観察を可能にし、それにより診療の効率化と質の向上を実現



有識者からのコメント・質疑



城戸先生（大阪公立大学、アフリカにおける研究に従事）

- ICUのような高度医療の技術はアフリカ諸国においても需要が出てきており、人口の高齢化や疾病構造の変化に合わせた様々なサービスが今後求められていくだろう。
- 高度医療を提供することが、ユニバーサルヘルスカバレッジにおける重要な 이슈になっていく。



Dr. Thierry NSHIMIRIMANA（ウガンダ ルビー病院）

- 感染症のパンデミック化などにおいて患者を隔離した場合でも、医療従事者間の接触を制限しつつ適切な情報共有が行えるという点で有用性を高い
- トリアージや保健制度、ICUに必要な薬剤などの側面から事業をローカリゼーションしていくといった課題がある

ファシリテータ コメント

- 現在新生児死亡率が改善してきている。簡単な治療や予防対策が進んできたということ。以前はアフリカで高度医療のビジネスを展開するということは考えにくかったが、今後、需要が生じることは十分に考えられる。

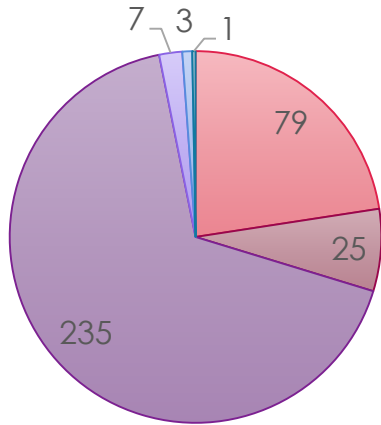
セミナー後に実施されたアンケートでは、**セミナーに満足したとの回答が大半を占めた。**

登壇企業の事業内容に興味があるとの回答の中には、**具体的な連携の検討を希望するものもあった。**

参加登録者の所属先
(350名中)

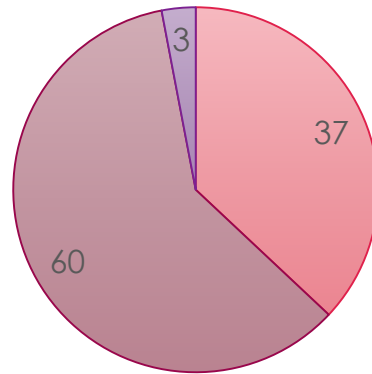


参加登録者の居住国
(350名中)



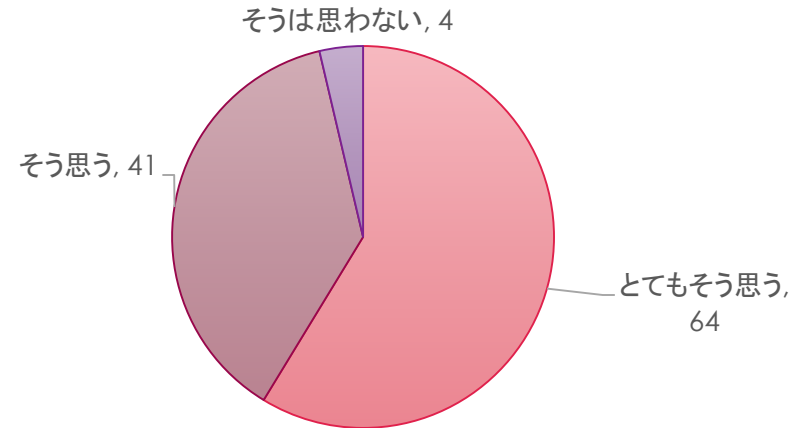
- 英語圏アフリカ
- 仏語圏アフリカ
- 日本
- アジア

セミナー満足度
(アンケート回答者110名中)



- 非常に満足
- 満足
- その他

セミナーが役に立ったか
(アンケート回答者110名中)



セミナーの長さ
(アンケート回答者110名中)

